

議事 ①

令和 5 年度事業報告

事業の成果

令和 5 年度の正会員数は 405人、特別賛助会員数は 157人、賛助会員数は 70人、法人賛助会員数は 4人でした。以下の方針に基づき事業を実施しました。

[令和 5 年度 事業 実施 の 方針]

“いつまでもきらりびと”

市民が安心して過ごせる地域社会を実現するために、利用する側の視点に立った総合的な地域福祉サービス活動を行い、もって住民の福祉及び保健の増進に寄与し、地域づくり、人づくりに努める。

1 地域福祉サービス提供事業

① 助け合い事業・移送サービス事業(福祉有償運送)

助け合い活動は 1, 904件、延べ 2, 163時間のサービス提供となりました。活動内容別件数の前年度比では、家事援助が 110. 87%、介助・介護・育児支援が 81. 00%、となりました。サービス提供者(協力者)の高齢化により実際に活動できる会員が減少しています。公的制度によるサービスの隙間を埋める「助け合い活動」の重要性は高く、本法人の中核的活動と捉えて、町民の皆様に参加いただけるよう活動を進めています。

移送サービス(福祉有償運送)の利用者は介護保険認定者及び障がい者等に限定されたサービスで、平成18年自家用旅客運送登録。利用目的は、通院、買い物、社会参加活動等、多様であり利用は定着しています。延べ2, 928件、16, 220kmの利用となり、件数で前年度比84. 11%となりました。移送サービスの運転は75歳で退任となることから、運転者の減少で依頼に応えられない状況が出ていましたが、プラザサポーターとの交流をきっかけに運転協力者の申し出が起きています。

② 認知症予防活動 (ふれあい共想法)

理化学研究所認知行動支援技術チームの大武美保子氏と契約を結んで共同研究を進めているふれあい共想法は、コロナ禍できらり姫宮での活動は休止しましたが、理化学研究所と参加者をスマートフォンで結んでの遠隔(リモート)共想法が行われました。

③ ふれあい活動

住みやすい地域を作るため「住民相互の交流を実現し、引きこもりを防止」する場を提供しようとする活動です。2007年に「きらり姫宮」にふれあいサロンを開設、その後道佛集会所・須賀集会所及び百間集会所を会場に、理事が中心となり会員の協力を得て開設。会員ばかりではなく地域の皆さんにも参加を呼びかけ、交流と引きこもりの防止に寄与しています。コロナ禍により休止となっていましたが一部再開となりました。

④ 評議員の活動

きらりびと通信の発行月に評議員会を開催し、会員の意見や要望を基にした協議を行い、運営に反映しています。

⑤ 「きらりびとみやしろ園上さん家」

元理事の園上氏から寄贈された宮東の家屋は、「きらり園上さん家」としてサロン活動が始まりました。この特色は、会員同士の交流と研さんの場として「健康マージャン」「そば道場」が活動しています。コロナ禍により休止していましたが開始となりました。

2 意識啓発事業 (研修事業)

① 一般公開企画

「新しいふれあい社会づくり懇談会」

多くのみなさまと意見交換ができる大切にしてきた「新しいふれあい社会づくり懇談会」は、コロナ禍により開催を中止しました。

② バザーの実施

コロナ禍により中止されていた町民まつりが復活し、バザーは一日限定での実施となりました。品物が古くなってしまったこと、開催の時間も少なかったこと、さらに担当者の高齢化やネットオークションなどの隆盛から開催の見直しが話題となっています。

③ 広報活動

(1) 「きらりびと通信」は年3回発行し、会員及び関係団体等へ配布しました。読みやすい紙面、わかりやすい表現を工夫し、複雑な介護保険制度や介護の話題、本法人の各種活動など多様な情報発信を図ってきました。

(2) 「ホームページ」理事長のつぶやきコーナーは、きらり姫宮ホーム長も加わり日常の出来事をお知らせしています。

3 受託事業

① 福祉交流センター「陽だまりサロン」の運営

「陽だまりサロン」の指定管理者として24年、コロナ禍が落ち着いてきたことから交流事業を開始しています。通常開館については、学校との交流は止まっていますが、一般向けは予防対策をとっての開館となりました。利用者は6,199人で、前年度の4,233人に対する利用率146.4%になりました。

② 日本工業大学相互支援事業

2006年日本工業大学と相互支援協定を結び、大学からは情報メディア工学科から助け合い活動支援ソフトの開発・改善を、きらりからは生活環境デザイン学科の介護演習・介護実習の提供をしています。コロナ禍の解除により、助け合いソフトの開発では糸野教授と学生による実習は行われました。介護演習のきらり職員大学派遣および学生のきらり姫宮実習は中止されています。

③ ファミリーサポートセンターの運営

宮代町からの委託により2018年から開始しました。3月末には利用会員108名・提供会員71名・両方会員3名が入会しており、776回のサービスが行われました。前年度実績は631回となっています。

コロナ禍が落ち着いたことから、利用会員と提供会員の交流会が1月27日(土)役場202会議室で行われました。

4 介護保険法等による事業

コロナ感染予防について、6月より5類に移行しましたが介護施設としての対策は緩められず、関係職員全員の毎週の抗原検査と毎日の体温測定・消毒の実施、面会者他外部者の施設立ち入り禁止、利用者様を含めた全員のワクチン接種など努めました。11月グループホームにおいて3度目のクラスター発生となりましたが、幸いほとんどの方が軽症で施設療養となり、医療機関との連携も良好に行われ、3週間ほどで通常に戻れました。

① 居宅介護支援事業	延べ 613件(前年度641件)
② 訪問介護事業	延べ 451件(前年度456件)
③ 通所介護事業	延べ 1,981名(前年度2,451名)
④ 認知症対応型共同生活介護事業	延べ 202名(前年度204名)

5 子育て支援事業

子育て支援事業(認可外保育施設)として、1歳から小学生までの一時保育事業「キッズルームきらり」は、コロナ禍の影響から活動は休止しました。

① 宮代町障がい児(者)生活サポート事業

利用はありませんでした。

6 お泊りデイ(宿泊サービス)事業

一時休止としました。

7 その他の事業

埼玉県スマート介護施設モデル事業の指定を受け、介護ロボットの導入を行いました。県から委託されたコンサルタントの協力の下、グループホーム職員と施設長・事務局長・ICT委員長によりプロジェクトチームを組んで、7月から会議を重ね導入になりました。ロボットは見守りを目的とし、寝具下に敷かれたセンサーとカメラを使ったシステムで、夜勤者の見守り負担を軽減できるものとなっており、補助金額は介護サービス事業所ICT導入支援モデル事業補助金と合わせて1,601,000円となっています。プロジェクトメンバーはそれぞれ日常業務をしながらの取り組みで、大変大きな苦勞を乗り越えました。県民健康センターでの成果報告会(介護事業者向け)の発表も行い、たいへん高い評価を受けています。

5年度は、会員2名の方から合わせて200万円のご寄付をいただきましたことから、追加の介護ロボット4セットを導入、二つのユニットに3台づつの設置ができました。グループホーム介護職員の負担軽減につながることになりました。